

# こうほう ショッキング

Vol.85

Kōhō shocking



さいとうまさふみ  
齋藤雅文さん  
(42歳)

しほ  
志保さん  
(37歳)

## ●プロフィール

雅文さんは豊玉町鑓川出身。豊玉高校を卒業後、福岡カレッジオブビジネスで2年間学び、松山大学に編入。卒業後は株式会社新出光に6年間勤務。29歳で帰郷し、父の会社に勤める。現在、有限会社齋藤商事専務取締役。志保さんは長崎市出身。長崎大学教育学部を卒業し、29歳の時から中学校の音楽教諭として奉職。上五島で勤務中の昨年8月に結婚。今年度から厳原中学校に勤務。

○家業であるガソリンスタンド業務の修業はいかがでしたか？

福岡で1年、大阪で5年勤務しました。所長にも厳しくされましたが、友達もでき、仲良くなった上司と休日を利用したレクリエーションを楽しむこともありました(笑)。通常は3年間で終了する下積みも、もっと仕事を探求したくて(笑)6年間勤務。でも、祖母が亡くなり祖父も弱ってきたので、さすがにそろそろ帰って来いと言われ、対馬に戻ってきました。

○ガソリンスタンド業を始めたのは？

僕の父です。50年近く前、豊玉町に入って上地区に向かう国道と県道の分岐点という地の利を生かして「これからは車の時代」と開業したそうです。現在はプロパンガスも取り扱い、地域に密着した、地元あつての商売をさせていただいています。これからも皆さんに愛してもらえる店であり続けたいです。昨年からも帰ってきて一緒に頑張っています。

○地元で大切にしたいものとは何でしょうか？

「つながり」ですね。僕に何か

があつたら助けてもらわないといけないし、また僕自身も誰かを助ける者でありたい。大切なのは「人」。人と人が大切に思うことで、つながっていけると思います。

○お仕事を通して時代の変化を感じる点は？

ガスの検針をしていた家が高齢化で空き家になっていたりオール電化になってガスを廃止したりと、時代の流れを感じます。また、低燃費車が普及し、ガソリンの給油回数も減っています。ガスやガソリンはインターネットでは購入できませんから廃れることはないですが、だからこそ地元の皆さんに愛される店であり続けるよう、いつも笑顔でいられるように努力していかなくてはと、いつも思います。そういえば、以前は硬かった笑顔が結婚してから柔らかくなったと言われます(笑)。

○お二人の馴れ初めは？

志保…一昨年に開催された「島婚イベント」で知り合いました。対馬出身で年上の同僚がいて、時々彼女の実家にも遊びに来ていたのですが、その方から島婚イベントへの参加を促さ

れて。安価で対馬に遊びに行けるから、と気軽な気持ちで申し込みました。

雅文…僕も、島婚がどんなものか経験したいなあ、くらいのノリで。でも出会ってすぐ意気投合して。男女15名ずつの参加で、結婚したのは僕たちを含む2組でした。

○お二人の新たな生活の抱負をお聞かせください。

志保…彼は私を自由にさせてくれていますし、私がこうしたいということにも協力してくれます。私も彼を支えつつ、お互い対等で、言いたいことを言える関係でいたいと思っています。雅文…僕は彼女の笑顔が好きなんです。人生の中で笑顔でいられる時間が長くあるようにと願っています。自分も笑顔でいたいし、仕事も家庭も地域も、支えあつて笑い合っていられたいなと思います。

○ごちそうさまでした(笑)。どうぞ末永くお幸せに。

毎回、登場してくださった方に次の方を紹介いたたくこのコーナー。次回は豊玉町貝口にお住まいの田中初生さんです。お楽しみに。